

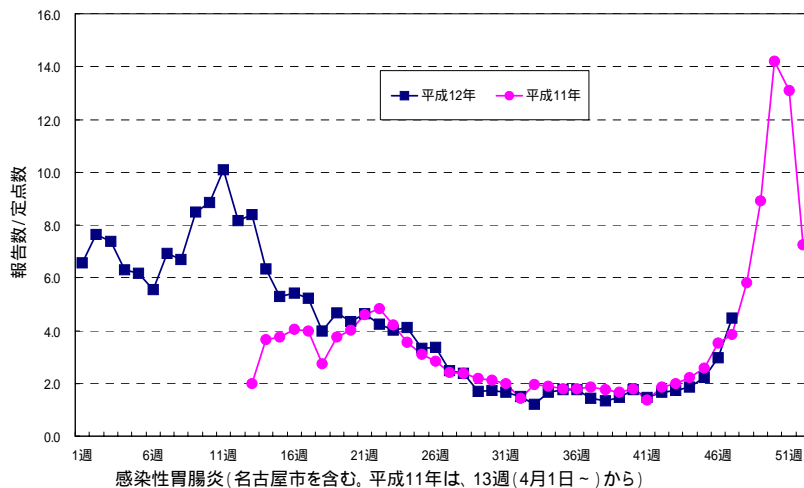
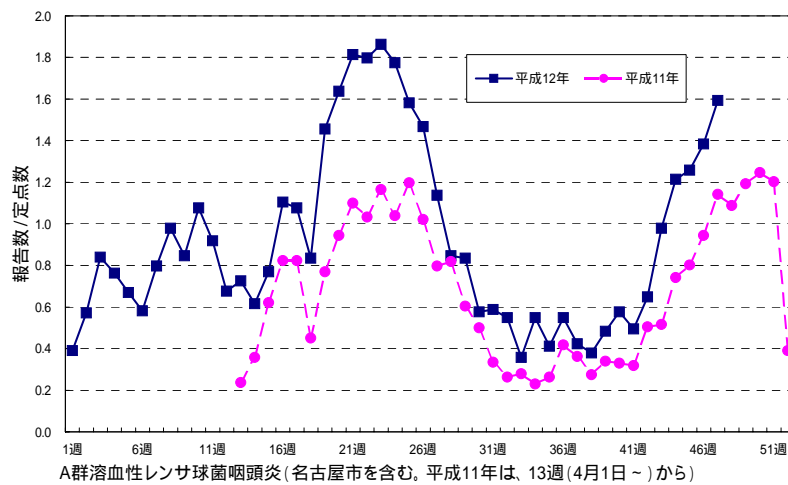
愛知県感染症情報

平成 12 年第 47 週（11 月第 4 週）

（コメント）

水痘、手足口病、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎感染症は流行中で、いずれも昨年の報告数より多い状況が続いています。

感染性胃腸炎は、例年これからピークをむかえますので注意してください。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 手足口病、流行性耳下腺炎の流行がつづいています。
感染性胃腸炎少しみられますが、症状は軽いようです。

（一宮市 あさのこどもクリニック）

- ・ 今回の手足口病は兄弟間での感染例が多い。
サルモネラ感染症 O9 群 3 歳男
(一宮市 後藤小児科医院)
- ・ 無菌性髄膜炎 4 歳女、病原体検索中、現在の所未確認
インフルエンザ A 4 名(38 歳女、28 歳男、18 歳男、1 歳女)
何れも B D ディレクティジェン F l u A 迅速
インフルエンザ B、10 歳男いずれも (H I) にて高値 (B - 1)
パラインフルエンザ 型男 3 名 (1 歳、3 歳、20 歳代各 1 名ずつ)
女 7 名 (0 歳代、1 歳、3 歳、5 歳、10 歳代、20 歳代、80 歳代以上各 1 名ずつ)
マイコプラズマ肺炎 1 歳男
(尾西市 城後小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎 2 名 (42 歳男、5 歳男)
(新川町 三輪医院)
- ・ 流行性耳下腺炎、水痘、手足口病つづいています。急性胃腸炎が多くなってきました。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 水痘、流行性耳下腺炎、手足口病が流行しています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- 尾張東部地区
 - ・ 手足口病は少なくなりました。
溶連菌感染症が 1 歳 ~ 1 2 歳に 1 6 名と増加しています。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ 伝染性紅斑姉妹例あり。
まだ、手足口病がみられます (一保育園で流行しているようです)。その他、目立った感染症はありませんでしたが、感冒が増えてきました。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ 胃腸風邪が多いです。
(半田市 医療法人林医院)
 - ・ 女性の嘔吐下痢を伴う感冒性胃腸炎多し
(南知多町 医療法人大岩医院)
 - ・ 手足口病の流行が続いています。ムンプスもみられました。
今週は喘息発作も多くみられました。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ 感冒性胃腸炎少し出始める。手足口病髄膜炎いまだに発生してる。
(小牧市 小牧市民病院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌（O-128 と O-18 の 2 歳男、O-1 3 歳男、 O-1 1 歳男）
（豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック）
- ・ 手足口病増加、水痘、突発性発疹ポツリポツリ
（豊田市 やふそ小児科）
- ・ カンピロバクター 6 歳男
溶連菌感染症が増加してきました
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2(-) 10 ヶ月男
カンピロバクター 13 歳男
（岡崎市 にいのみ小児科）
- ・ 病原性大腸菌 O-166 VT1・VT2(-) 1 歳男
（岡崎市 とみた小児科）
- ・ 幼児から学童で嘔吐を主症状とした胃腸炎増加
（碧南市 永井小児科クリニック）
- ・ ムンプスが増加中
（西尾市 やすい小児科）
- ・ サルモネラ O-7 1 歳女
（西尾市 山岸こどもクリニック）

● 東三河地区

- ・ カンピロバクター（+）2 歳男
感染性胃腸炎と水痘が流行中です。
（豊橋市 こどもの国大谷小児科）
- ・ ムンプスの流行が、小範囲で続いています。
（田原町 かわせ小児科）

（1～3 類感染症の発生状況）

腸管出血性大腸菌感染症患者 1 名。

- ・ 瀬戸保健所から報告の 11 歳女。11/16 発病、11/16 初診、11/22 診定。菌型は、O-157 VT2（+）。

腸管出血性大腸菌保有者 2 名。

- ・ 瀬戸保健所から報告の 31 歳女。11/20 初診、11/20 診定。菌型は、O-157 VT2（+）。
- ・ 岡崎保健所から報告の 3 歳男。11/19 初診、11/22 診定。菌型は、O-157 VT2（+）。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

ツツガムシ病患者 1 名。

45 週 (11 月 6 日 ~ 11 月 12 日) の 4 類感染症の全国状況

冬季に患者が増える A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、流行性耳下腺炎などの疾患の定点当たり報告数が増加傾向にある。流行性耳下腺炎は第 45 週の定点当たり報告数としては過去 10 年間で最も多くなっている。感染性胃腸炎は福島県、京都府、福井県、宮城県、石川県などで定点当たり報告数が多くなっている。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナなど、夏季の流行疾患の定点当たり報告数が例年に比べかなり多い。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当た 6.5 と報告が多い。鳥取県では無菌性髄膜炎の報告が今週も多くなっており、一部の患者の検体からエコーウイルス 9 型が分離されている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

お昼休み。日溜まりのベンチで学生たちが陽なたぼっこをしています。暖い場所を知っているのは我家の猫と同じで笑ってしまいます。いつも貴重な情報を有難うございます。11月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：地区によってはまだ手足口病の発生が続いていて、髄膜炎の合併入院例も目立っています。一方ムンプス髄膜炎の散発も続いています（第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生）、ロタウイルスによる腸炎（国立・伊藤先生）、感染性嘔吐（三菱・岩間先生）、年長児のウイルス性腸炎（大同・水野先生）、嘔吐の激しいウイルス性腸炎（労災・山田先生）、病原性大腸菌O111散発中だがVT陰性が多い（城北・渡辺先生）、ヘルパンギーナ（労災・山田先生）などのお手紙をいただいています。他に、急性喉頭炎（労災・山田先生）、仮性クローンやRSウイルス感染症の入院目立つ（中京病院柴田先生）、上気道炎でRSウイルス陽性者散見（城北・渡辺先生）、乳幼児で咳嗽激しい例では半数で鼻汁中のRSウイルス陽性（三菱・岩間先生）、マイコプラズマ肺炎（第一日赤有吉先生、労災・山田先生、大同・水野先生）、クラミジア肺炎（大同・水野先生）、細気管支炎、気管支炎、肺炎（三菱・岩間先生、大同・水野先生）、EBウイルス感染症（労災・山田先生）、サイトメガロウイルス肝炎（大同・水野先生）、急性脳炎（第一日赤有吉先生）などのご報告です。千種区今枝先生からは発熱39、鼻汁・咳があり理学所見の少ない感冒の家族内発生とフィリピン人のおばから感染した3ヵ月児の疥癬例ありとのお手紙でした。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは手足口病と水痘がまだ散発中、江南市昭和病院西村先生からはムンプスとクラミジア肺炎、常滑市民病院上田先生からは突発疹、ムンプス、細菌性胃腸炎（サルモネラ）、EBウイルス感染症、A群溶連菌感染症が散発中で突発疹の発熱例やヘルペス歯肉口内炎、大腸菌O157（H7ではなくVT陰性）による入院例ありとのお手紙でした。

3. 三河地区：加茂病院梶田先生からは手足口病（髄膜炎合併例が目立つ）と水痘が多発中で細気管支炎の発生が始まり、MRSAによるブ菌性火傷様皮膚症候群が4例あり目立った、知立市近藤先生からは水痘流行中、溶連菌感染症も多くムンプス散発中でカンピロバクター腸炎と病原性大腸菌（O18、O1）2例あり、刈谷市田和先生からはムンプスと手足口病が少し目立ち溶連菌感染症がたまにみられ、他に急に発熱（2～3日）するものが幼稚園～学童で少し目立つ、豊橋市宮澤先生からは溶連菌感染症、細気管支炎、マイコプラズマ肺炎などの少数例ありとのお手紙でした。有難うございました。

2000年10月6日号(75巻40号)

リフトバレ - 熱(注:日本脳炎グル - プの蚊媒介性ウイルス脳炎。東アフリカを中心に分布。羊などの家畜にも流行。人畜共通感染症として重要)。本年10月に入りサウジアラビアとイエメンで流行中。WHOでは流行地旅行者に蚊対策(長袖長ズボン、蚊よけの殺虫剤、蚊帳)と動物に接触しないことを勧告している。

世界の黄熱。98 - 99年。98年全世界で303例(死亡117例)。91%が南米で9%はアフリカ。99年は208例(死亡101例)。207例が南米。98 - 99年の多発地区はボリビア、ブラジル、ペル - 。99年には象牙海岸からドイツへ1例、ボリビアから米国へ1例の輸入例あり。本報告では各国の状況の概略も。

インフルエンザ:本年9月。オ - ストラリア。A型H3N2主体。

9月29日 - 10月5日届出:コレラ。ニジェ - ル、インド、マレ - シア、モンゴル、ブルネイ、ミクロネシア。

2000年10月13日号(75巻41号)

リフトバレ - 熱。サウジアラビアとイエメンの流行(承前)。東アフリカに発生が限局していたこの疾患の流行が拡大した(本年10月9日時点でイエメンでは321例、死亡32例)ことをWHOは重視、対策のための財政的援助を決定。

インフルエンザ。ワクチン組成。WHOの2001年流行期接種ワクチンの組成に関する勧告。2000年夏から秋の南半球:南米、大洋州、アフリカ、東南アジアなどで新しく分離されたインフルエンザウイルスの抗原分析を基に下記が勧告された(注:本邦でも同一系列のウイルスで今回流行期ワクチンは作成されている)。A(H3N2):Aモスコウ10/10/99かAパナマ2007/99。A(H1N1):Aニュー - カレドニア/20/99。B:Bシ - チュアン/379/99。

黄熱。世界地図。前号の地理的分布。

インフルエンザ:本年9 - 10月。オ - ストラリア。A型。スイス。A型。

10月6日 - 12日届出:コレラ。香港(輸入例)、スペイン(輸入例)。

2000年10月20日号(75巻42号)

エボラ出血熱。ウガンダ。本年10月18日時点で同国厚生省が94例(死亡39例)の罹患を報告。発生は北部のグル地区に集中。南アフリカウイルス研究所によりウイルス学的確認実施。同国厚生省はWHOと国境なき医師団などの協力で国家的なウイルス出血熱対策本部を設置してグル地区を中心に活動を開始した。

世界のペスト。98年 - 99年。世界全体の届出状況。98年:2,464例(死亡209例)、99年2,603例(212例)。目立つのはアフリカではコンゴ、マダガスカル、モザンビーク、タンザニア、南北アメリカではペル - と米合衆国、アジアでは中国、カザフスタン、ベトナムなどで全世界に分布している。

インフルエンザ:本年10月。オ - ストラリア、デンマ - ク、香港、スイス。未分離。

10月13日 - 19日届出:コレラ。南アフリカ、インド、ミクロネシア。